

# JR北海道が5,000円のベア回答

北海道鉄道本部は3月14日の団体交渉で、JR北海道から5,000円のベースアップ回答を受けました。定期昇給をふくめた賃金引き上げ額（54歳以下一般社員の平均）は10,913円（3.92%）になります。また、忌引休暇の制度改善、日宿直手当の増額などの回答も示されました。エルダースタッフ（A）の基本給が10,600円引き上げられます。

3月12日の回答指定日に開かれた3回目の団体交渉では職場環境について追加回答がありました。忌引休暇の付与日の設定が社員にとって有益なものに改善されました。交検庫への冷気の侵入についても令和7年冬期に温風暖房機設置など対策を試行すると回答され、継続した要求と交渉によって前進が見えるものとなりました。要員の状況について確認し、エルダー社員の労働力に頼っている面についても共通認識として、次回以降の賃金に関する回答で処遇改善が実施されること求め、この日の団体交渉を終えました。

3月14日の4回目の交渉で「5,000円のベースアップとエルダースタッフの基本給改定」が示されましたが、職場から声があがっているガソリン高騰に対応した通勤手当の見直しなど諸手当の改善をふくめ再検討を求めました。正午からおこなわれた最終回答で上記の引き上げになり、JR病院の日宿直手当や国家資格取得によるお祝い金についても増額など改定がおこなわれます。エルダースタッフの賃金については、秋の最低賃金引き上げ額を見据えた上乗せを春闘期におこなうことを求め続けてきた成果で、勤続奨励金も増額となりました。しかし、エルダー社員の労働力が安全安定輸送に不可欠なものとなっている状況のもとで、65歳定年制や同一労働同一処遇の考えに基づく寒冷地手当の支給など早期見直しが求められる課題も残っています。人材の流出を防ぎ、新しい力を迎え入れるために必要な賃金改定を評価しつつ、社員と家族が安心して暮らせる待遇改善をすすめるために引き続き協議を深めることを確認し、3月17日10時をもって集約としました。

## なかよしどろんこクラブで賃金アップ

札幌学童保育支部の「なかよしどろんこクラブ」（共同学童保育）で支援員の賃金について、社会人アルバイト職員の時給が50円引き上げられて1,100円となり、常勤パート職員への被服費支給、正規職員のうち1人と常勤パートの定期昇給および正規職員の超過勤務手当増額などが実現しました。また、期末手当が正職員・常勤パートに基本給の0.5か月分、社会人アルバイトに1万円が支給されました。

## 函館運送支部が春闘要求書提出

函館運送支部は3月5日に春闘要求書を提出しました。賃金要求は組合員1人あたり平均30,000円以上の賃上げ、車両運転手当・住宅手当などの引き上げ、定年制を65歳までに引き上げて58歳以降の賃上げおよび一時金の支給率を本採用と同一にすること、過重・過密労働をなくすための必要人員の確保、東京支店の嘱託3名の正社員化、休暇制度の改善などを求めています。また、夏季一時金については「組合員平均60万円」を要求しています。

## 札幌学童保育支部が市と協会に要求書提出

札幌学童保育支部は2月12日に札幌市長あて「要求書」を提出し、2月13日には公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会あてに「児童会館の運営に関する要求書」と「職員の賃金・労働条件改善に関する要求書」を提出しました。協会とは3月6日に交渉し、パート職員の時給70円アップと、再任用職員の給与は3.53%~5.94%アップ（職種によっては9,000円~11,000円）などの回答がありました。